

第5学年 外国語活動学習指導案

2組 計30人（男子17人，女子13人）

指導者 奥野裕樹

A E A 内園葉子

1 単元 「おもてなしレストラン」を開こう (Hi, friends!1 Lesson 9 What would you like?)

2 単元の目標

- 欲しいものについて丁寧に積極的に尋ねたり答えたりしようとする。
- 欲しいものについての丁寧な表現の仕方や尋ね方に慣れ親しむ。
- 世界の料理に興味をもち、欲しいものを尋ねたり言ったりする際、丁寧な表現があることに気付く。

3 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しむ	言語や文化に関する気付き
相手意識をもって、欲しいものについて丁寧な表現で尋ねたり答えたりしながら友達に積極的に関わろうとしている。	丁寧な表現で欲しいものを尋ねたり言ったりする丁寧な表現に慣れ親しむ、それらを用いながら活動している。	世界の料理に興味・関心をもつとともに、英語にも状況や相手に応じた丁寧な表現があることに気付いている。

4 単元について

(1) 単元の位置とねらい

これまでに子供たちは、外国語活動の学習において、基本的なあいさつの仕方や気分を表す言葉、数、好き嫌いを表す表現について学び、それらを用いて話したり聞いたりする中で英語に慣れ親しんできた。このような学習を通して、子供たちは、自分の気持ちを他者に伝えることの大切さや友達とコミュニケーションを図る楽しさを感じている。また、歌やゲーム、チャンツなどの活動を通して英語と日本語との音声やリズムの違いに気付き、英語特有の表現の仕方についても体験的に理解してきている。

そこで、本単元では、子供たちにとって身近な食事について取り上げ、相手に欲しいものを尋ねたり自分の欲しいものを注文したりする活動を通して、コミュニケーションを図る楽しさを味わうとともに、英語も日本語と同様に状況や相手に応じて、異なる表現があることに気付き、丁寧な表現に慣れ親しむことができるようにする。また、外国の給食を知ること、世界の料理に興味をもち、食文化の違いにも気付くことができるようにする。

本単元で学習した「自分の希望を伝える表現」は、第6学年の“Hi, friends!2” Lesson6「行ってみたい国を紹介しよう」の学習へとつながっていく。

(2) 子供の実態（調査人数28人，質問紙法，数字は人数，9月5日実施）

項 目	回 答	
外国語活動は好きですか。	好き（14） あまり好きではない（1）	どちらかと言えば好き（13） 嫌い（0）
その理由は何ですか。 （複数回答あり）	好き ・友達とやりとりをするのが楽しいから（6） ・教え合って（学び合って）分からないことを分かっていくのが楽しいから（3） ・外国語活動の授業が楽しいから（2） ・日本語と違う言語を学べて自分のためになるから（2） ・ゲームなどが楽しいから（1）	あまり好きではない ・発音することが難しいから ・発音が聞きづらいから ・話すときにつまったり、間違えたりして恥ずかしいから

どんな活動が好きですか。(複数回答あり)	・チャンツ (12) ・ゲーム (11) ・グループでの活動 (8) ・歌 (2) ・先生や友達にインタビュー (1)		
外国の方に自分の伝えたいことが伝わるか試したいですか。	試してみたい (13)	どちらでもよい (9)	試したくない (6)
	・通じたら自信になるから ・自分の発音を通じるか知りたいから	・チャレンジしてみた い気持ちが少しある	・話すのが怖いから ・恥ずかしいから
外国語活動で困ることや難しいと思うことはどんなことですか。	・特にない (13) ・詳しい発音や途中の発音が分からなくなる (9) ・英語の言い方が覚えられない (4) ・恥ずかしがって英語を言わない人がある (2)		
英語にも日本語の敬語のような言い方があると思いますか。	あると思う (21)		ないと思う (7)

5 指導に当たって

本單元においては、単元の導入で外国の方々を招待して『5の2おもてなしレストラン』を開こうという単元のめあてを子供たちに提示し、活動への意欲や見通しをもたせたい。また、英語で何が欲しいか尋ねたり答えたりするために必要となる表現を考えることで、将来、外国へ旅行した際にレストラン等で食事をするときに役立てたいという学習への必要感をもつことができるようにする。

次に、レストランで注文する活動を通して、同じことを尋ねるときでも状況や相手に応じて使われる表現が違ふことに気付かせ、英語にも日本語の敬語のような丁寧な言い方があることを理解させることができるようにする。また、料理や食べ物の言い方を知り、外来語と英語との音の違いに気付かせると同時に、英語らしい発音ができるようにチャンツ等を繰り返し行い、十分に慣れ親しませる。その際、お店屋さんごっこ風にペアやグループで活動することができるようにする。活動中に表現の仕方でも迷ったり、発音が分からなくなったりしたときには、タブレットPCで音声を聞くデジタルコンテンツを活用したり、AEAに発音を確認したりしながら主体的に取り組ませていきたい。

単元の終末では、グループごとにテーマに沿ったレストランメニューを考えて、相手をもてなすことができるような尋ね方や表情などを話し合う。グループで交流し、店員役と客役の両方を体験することで、互いに目的をもってコミュニケーションを図ることの楽しさを味わい、積極的に関わろうという態度を育成することができるようにしていきたい。

(1) 課題解決へ向けた「学び合い」【研究内容1】

ア グループでの「学び合い」

グループごとに、自分たちのスキットの練習を本時のグループでの「学び合い」として設定する。スキットをしている様子をタブレットPCで撮影した動画で振り返ることで、相手意識をもった動きや表情になっているかについて意見交換ができるようにする。その際、「もっと相手の気持ちを考えて、相手の動きや答えに合わせた反応や表情をすればいいと思う。」「メニュー表を指さしながらおすすめメニューを伝えたり、注文を確かめたりする方がいいね。」といった考えを伝え合うことで、自分たちが表現したいおもてなしの気持ちを具体的にすることができるようにする。教師が各グループの練習の様子を見取り、「ジェスチャーをどういう風に工夫するとういかな。」と問い掛ける発問をすることで、自分たちに必要な工夫について焦点化できるようにする。

イ 全体での「学び合い」

はじめに各グループで学び合って焦点化した具体的な工夫について、ホワイトボードに書いて紹介し合う。次に、授業の初めに視聴したモデルスキットを再度提示することで、自分たちのスキットと比べながら、よく工夫できていたところやもう少し見直した方がいいところについて意見交換できるようにする。全体で協力しながら工夫する点を話し合い、スキットに取り入れることで、自信をもってスキットの練習に取り組むことができるようにする。

(2) 自己の学びを自覚するための評価活動【研究内容2】

「友達と一緒にスキットを楽しむことができた。」「おもてなしの気持ちが伝わる言い方に気付いた。」「丁寧な尋ね方や答え方に慣れてきた。」という自己評価の観点を明示することで、自分の活動を振り返りやすくする。また、教師が各グループのよい点やおもてなしの気持ちを表情や行動でよく表現できていた子供を紹介することで、自己の学びを自覚することができるようにする。さらに、次の時間に外国の方と一緒にスキットを行うことを伝えることで、「おもてなしレストランを開く」という期待感や意欲を高めることができるようにする。

6 指導計画（全5時間）

学習課題

子供の活動

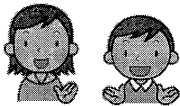

子供の意識

評価項目及び評価方法

過程	学習活動	教師の具体的な働き掛け
意欲をもつ (1)	<p>〔単元のめあて〕</p> <p>「5の2おもてなしレストラン」を開こう。 (自分たちの考えたスキットで発表会をしよう。)</p> <p>欲しいものを探ねたり答えたりする言い方に慣れよう。</p> <div> <ul style="list-style-type: none"> 単元のめあてを知り、学習計画を教師と一緒に立てる。 さくらとたくのフルーツパフェを選ぶ。 友達にフルーツパフェを作る。 欲しいものについての丁寧な表現について知る。 </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 欲しいものを探ねたり答えたりするときには、What do you want? が使えそうだな。 さくらの好きな果物がのったパフェを選ぶことができたぞ。 敬語のような言い方が英語にもあることが分かったぞ。 </div>	<p>○ 単元のめあてを知り、その達成のためには何を練習することが必要か考えさせることで、単元の学習計画を立てることができるようにする。</p> <p>○ What do you want? と What would you like? の使い方の違いを状況や相手を比較することで、気付くことができるようにする。</p> <p>◆ 英語にも丁寧に尋ねたり答えたりする表現があることなどについて気付いている。【言語や文化に関する気付き：行動観察・振り返りシート】</p>
つかむ (2)	<p>メニューの言い方を知り、レストランで使われる表現に慣れよう。</p> <div> <ul style="list-style-type: none"> いろいろなメニューの言い方に慣れる。 レストランの店員役と客役でそれぞれ必要な言い方を知る。 全体でチャンツを行い、両方の言い方に慣れる。 </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 日本語とはメニューの言い方がちょっと違うな。 お客さんへは丁寧な言い方のWhat would you like? で尋ねるといいんだな。 店員役も客役もリズムに合わせて発音すると覚えやすいな。 </div> <p>丁寧な尋ね方を使って、レストランで使えるスキットを作ってみよう。</p> <div> <ul style="list-style-type: none"> グループごとにレストランのテーマを決めてメニュー表を作る。 基本的な表現のチャンツを行う。 グループで協力してスキット作りを行う。 </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 私達のレストランのテーマはヘルシーメニューにしよう。 はじめに「いらっしゃいませ、何名様でしょうか。」って言った方がいいのかな。 </div>	<p>○ 全体で確認したメニューの言い方や注文の仕方をグループで練習することで、子供一人一人が繰り返し発音し、表現に慣れることができるようにする。</p> <p>◆ メニューの言い方に慣れ親しんでいる。【音声や表現への慣れ親しみ：行動観察・振り返りシート】</p> <p>○ レストランのような場所でよく使われる丁寧な言い方を知り、取り入れることで、自分たちのスキットをよりよく作り上げようとすることができる。</p> <p>◆ 丁寧な言い方を使ったスキットの尋ね方や言い方に慣れ親しんでいる。【音声や表現への慣れ親しみ：行動観察・振り返りシート】</p>
楽しむ (1) 本時 4/5	<p>おもてなしの気持ちを大切にスキットで楽しもう。</p> <div> <ul style="list-style-type: none"> 前時のスキットやメニューの言い方のチャンツを行う。 おもてなしレストランのモデルスキットを見て、よい点と工夫すべき点に気付き、その理由を話し合う。 グループごとに自分たちのスキットの練習をする。 教室の前後に3グループずつになり、ミニ発表会を行う。 </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> スキットやメニューの言い方に慣れてきたな。 相手の表情を見ながら話さないと自分の思いが伝わりにくいと思うな。 相手の気持ちになってどう反応するのがよいかを考えよう。 メニューを指さしながら1つずつ注文を確認するといいね。 </div>	<p>○ スキットをグループでタブレットPCで録画しながら行うことで、自分のグループのよい点やもっと工夫すべき点を認め合い、おもてなしの気持ちを大切にスキットを改善することができるようにする。</p> <p>◆ 丁寧な言い方を使って、友達と目的をもったコミュニケーションを図る楽しさを味わう。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度：行動観察・振り返りシート】</p>
振り返る (1)	<p>「5の2おもてなしレストラン」をグランドオープンしよう。</p> <div> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに、外国の方に客になっていただきスキットを行う。 単元を振り返り、自分ができるようになったことや丁寧な尋ね方を使ったコミュニケーションのコツをまとめる。 </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 外国の方に伝わってうれしかったな。 自分の英語の発音に、自信がついたぞ。 もっともっと上手に話せるようになりたいな。 </div>	<p>○ 外国の方に欲しいものを探ねたり答えたりすることで、考えた言い方がどこまで伝わるかを確かめることができるようにする。</p> <p>◆ 自分たちのスキットで、外国の方とコミュニケーションを図ろうとする。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度：行動観察・振り返りシート】</p>

7 本 時 (4 / 5)

- (1) 目 標 丁寧な言い方で欲しいものを積極的に尋ねたり答えたりしてコミュニケーションを楽しむ。
 (2) 展 開 ☐ 教師の言葉掛け ☐ 子供の反応 ☒ 重点評価項目 ☆ ICT 活用上の留意点

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	教 師 の 指 導
意 欲 を も つ (9)	<p>1 あいさつをし、前時の表現のチャンツをする。</p> <div> <div>What would you like?</div>  <div>I'd like an omelet.</div> </div> <p>2 二つのモデルスキットを比べて、気付いたことを話し合い、本時のめあてをつかむ。</p> <div>スキットのどこをどのように直したらいいでしょうか。</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 笑顔が少ないからもっと笑顔で尋ねた方がいいです。 注文をとった後に、間違いがないか繰り返して確かめた方がいいです。 </div> <div>おもてなしの気持ちを大切にスキットを楽しもう。</div>	<p>○ 前時に学習した丁寧な言い方の表現を提示しながらチャンツを行うことで、大切な表現を想起し、全員で声に出して言うことができるようにする。</p> <p>○ モデルスキットの工夫・改善が必要な点に気付かせ、どこをどのように直すとよいかを考えさせることで、レストランでのスキットを行う際のポイントを明確に捉えることができるようにする。</p>
	<p>3 本時で目指すべき姿と学習の進め方を確認する。</p>	
	<p>4 グループごとに自分たちのスキットの練習をする。(グループでの「学び合い」)</p> <div> <div> 店員: What would you like? 客: I'd like ~. ~, please. 店員: Here you are. </div>  </div> <div>私たちのスキットは、尋ねるときのジェスチャーや動きをもっと大きくしないと、伝わりにくいことが分かるね。</div>	<p>○ おもてなしの気持ちを意識することで、何をどう工夫したらよいかを明確にしながらスキットを練習することができるようにする。</p> <p>☆ タブレットPCで自分たちの発表を撮影することで、伝わりにくい動きがないか確認することができるようにする。</p>
楽 し む (31)	<p>5 グループ発表後、全体で工夫するとよい点について話し合う。(全体での「学び合い」)</p> <div>店員役をするときは、相手の表情や反応をよく見て、伝えるといいね。</div> <div>客役になったときは、メニュー表を指しながら自分の欲しいものを言うとよく伝わるね。</div>	<p>○ 各グループのおもてなしのポイントをホワイトボードに書き、黒板に掲示することで、他のグループと比較しながら理解することができるようにする。</p> <p>○ モデルスキットを再度見ることで、おもてなしの気持ちが伝わる工夫についてのポイントを明確にしながら、意見交換ができるようにする。</p>
	<p>6 グループごとにスキットを見直し、ミニ発表会を行う。</p> <p>(1) グループで話し合う。</p> <div> <ul style="list-style-type: none"> 「もう十分」という丁寧な言い方を使うといいね。 注文を正しく受けるために、確認しながら話そう。 笑顔とアイコンタクトを大事にして尋ねよう。 </div> <p>(2) ミニ発表会をする。</p>	<p>○ 全体での「学び合い」で共有した考えをスキットに取り入れることで、各グループが自信をもって発表することができるようにする。</p>
	<p>7 本時の学習について振り返りと次時の学習の確認をする。</p> <p>(1) グループで話し合う。</p> <div>おもてなしの気持ちを込めて尋ねたり、楽しみながら注文したりすることができましたか。</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒にスキットを楽しむことができたぞ。 おもてなしの気持ちが伝わる言い方に気付いたよ。 丁寧な尋ね方や答え方に慣れてきたぞ。 </div> <div>次は、自分たちのスキットで外国の方をおもてなしすることができるか楽しみだな。</div>	<p>◆ 丁寧な言い方を使って友達とコミュニケーションを図る楽しさを味わっている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度：行動観察、振り返りシート】</p> <p>○ 自己評価の観点で振り返ることで、自分ができるようになった成果や変容を明確に自覚できるようにする。</p> <p>○ 次時の学習内容の確認をすることで、期待感や意欲を高める。</p>
振 り 返 る (5)		

外国語活動「学び合い」想定シート

学習のめあて

おもてなしの気持ちを大切にしてスキットを楽しもう。



グループでの「学び合い」

自分たちのスキットをタブレットPCで撮影し、おもてなしの気持ちがアイコンタクトやジェスチャーで表現できるように練習しましょう。

丁寧な尋ね方はできていたけど、相手の目を見ていなかったから、そこを直した方がいいと思うな。



ジェスチャーを使うタイミングが合っていないから、伝わりにくいんじゃないかな。



丁寧な尋ね方をするときには、相手のことを考えながら、笑顔で話しかけるようにすることが必要だね。

タブレットPCの動画を繰り返し見て、どのタイミングでジェスチャーをつけるのがいちばんいいか考えてみよう。



グループでチェックしたポイントをホワイトボードに書き、全体での「学び合い」で、紹介できるようにする。



全体での「学び合い」

各グループの考えを発表し、どのようなおもてなしの工夫が必要か考えましょう。

私たちのグループでは、ジェスチャーを大きくして伝わりやすいように工夫しようという考えが多く出されました。



どのような工夫が大切かを全体で話し合い、協力して有効な工夫を見いだす。



それでは、おもてなしの気持ちを大切にしてスキットにするには、自分のグループのスキットにどのような工夫を取り入れるといいだろうか。



What would you like? と尋ねるときには、アイコンタクトだけでなく、笑顔とメニュー表を相手に見やすく渡すなどの動きが大切だと思います。

笑顔やうなずきなどがあると、うれしくてスキットがもっと楽しくなることが分かりました。



グループ練習のときに相手に「どう思った。」などの感想を聞きながらするとよかったです。慌てないで、相手の動きや表情をよく見ることが大切だと思います。

そうか、相手の立場になって自分ならばどうしてほしいか考えながら言うことが、おもてなしの気持ちにつながるね。スキットに取り入れたいな。



グループごとにスキットを見直した後、ミニ発表会を行う。